第12号

奈良 国立博物館 だより

平成7年　1・2・3月

平常展
「仏教美術の名品」

1月4日(水)～4月2日(日)　　本　館・新　館
月曜日休館〔1月16日(月)は開館、翌17日(火)休館〕
午前9時～午後4時30分
(入館は4時まで)

特別陳列
「経塚出土陶磁展 畿内に埋納されたやきもの」

1月4日(水)～2月5日(日)　　本　館
月曜日休館〔1月16日(月)は開館、翌17日(火)休館〕
午前9時～午後4時30分
(入館は4時まで)

〔写真解説〕
花背・別所第2経塚出土陶製経筒外容器
(東京国立博物館所蔵)　平安時代 12世紀 総高34.2cm
愛知県渥美(あつみ)窯の焼成品。蓋の径が身の径に対して、かなり大きいのが特徴で、身には牡丹唐草文が線刻される。また初期の外筒によくみられる三筋文は蓋のみにめぐらされている。渥美窯は、その特産物として経筒外容器を多数焼いている。

特別陳列「経塚出土陶磁展　畿内に埋納されたやきもの」

1月4日(水)～2月5日(日)　本館(3～8室)

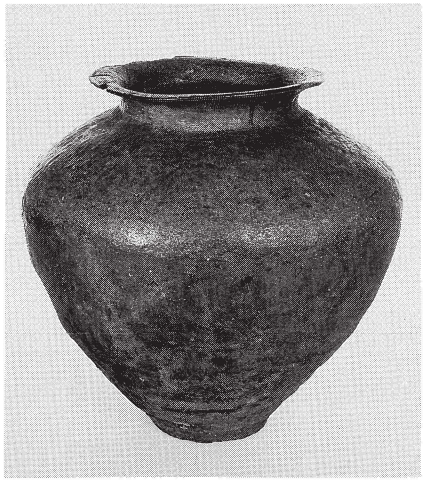
経塚は末法思想にもとづく仏教遺跡です。平安時代の中ごろに日本で独自に発生したといわれ、平安後期ごろから盛んにその造営が行われました。その経塚に埋納された遺物の中心となるのは、弥勒仏の出生に備えるための経典です。そして、それらを保存するための経典の容器には、さまざまな工夫と装飾が施されました。

この特別陳列は、それらの経典の容器の中で、近畿地方出土の陶磁製の経容器類に焦点をあて、とくに年代の明らかな基準遺物とそれに準ずるものを集めて、関連する遺品とともに、それらの変遷と地域的特色を紹介しようとするものです。これらの陶器類の中には東海地方の古窯で焼成された猿投、渥美、常滑などの古陶の名品や緑釉の経筒なども含まれていて、日本陶磁史上で重要な作品も少なくありません。

なお、今回展示できなかった西日本と東日本の経塚出土陶磁についても、別の機会に展示を予定しています。

〈主な出陳品〉《滋賀》比叡横川経塚出土品(延暦寺)、比叡西塔六所権現出土陶製経筒(延暦寺)、比叡南岳経塚出土品(東京国立博物館)、伝延暦寺出土陶製経筒〔保安3年銘〕(愛知県陶磁資料館)、《京都》◎花背別所経塚群出土品(福田寺)、鞍馬寺経塚出土品(京都国立博物館)、稲荷山経塚出土品(東京国立博物館)、《大阪》若宮八幡宮経塚出土品(東京国立博物館)、槇尾山経塚出土品(和泉市教育委員会)、《兵庫》石峯寺経塚出土陶製壺(神戸市立博物館)、高男寺経塚出土品(三木市高男寺地区)、《和歌山》◎伝和歌山県出土緑釉経筒(京都国立博物館)、伝和歌山県出土土製経筒〔天永銘〕、◎高野山奥院経塚出土品(金剛峯寺)、粉河経塚出土品(当館)、◎王子神社経塚出土品(比井若一王子神社)、高尾第1経塚及び第2経塚出土陶製甕(東京国立博物館)、伝白浜経塚出土袈裟襷文四足経筒外容器(愛知県陶磁資料館)、熊野本宮経塚出土品(東京国立博物館)、神倉山経塚出土品(熊野速玉大社)、権現山如法堂経塚出土刻文壺、那智経塚出土品(熊野那智大社)、伝那智経塚出土品、《三重》◉朝熊山経塚出土品(金剛証寺)、伝伊賀上野出土瓦質経筒外容器(愛知県陶磁資料館)、牡丹文経筒外容器(愛知県陶磁資料館)、緑釉経筒外容器(愛知県陶磁資料館)

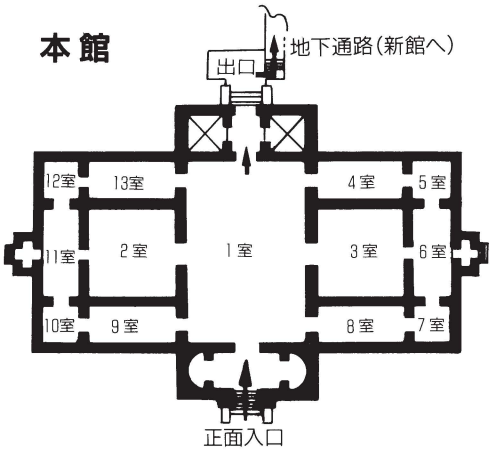
◎和歌山・高野山奥院経塚出土陶製経筒（金剛峯寺）

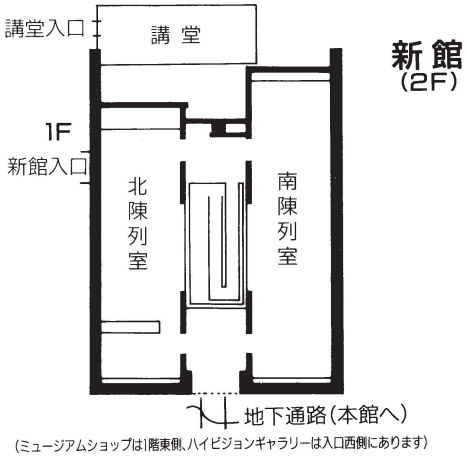


◎京都・花背別所第3経塚出土陶製甕（福田寺）

平常展「仏教美術の名品」　1月4日(水)～4月2日(日)　本館・新館

当館で収蔵・保管する館蔵品・寄託品の中から、国宝・重要文化財を含む多数の仏教関係の優品を展示し、仏教が伝来した飛鳥時代から連綿と続く多彩な美術を紹介します。本館は、各種の仏像の時代別展示と、寺院出土の遺物や瓦などを展示。新館は、仏像・仏画を大乗仏教、密教など種類・主題別に展示するほか、経典や仏教関係の文書、仏堂の装飾や、仏の供養に用いるための様々な仏具を展示しています。





主な展示品

本　館

彫　刻

一月

1月4日(水)～4月2日(日)
1、2、9～13室

【飛鳥時代】 ◎銅造誕生釈迦仏像(正眼寺)、◎銅造弥勒菩薩半跏像(神野寺) **【白鳳時代】** ◎銅造観音菩薩立像(金剛寺)、◎銅造誕生釈迦仏像(悟真寺)、◉銅板法華説相図(長谷寺)、◎木造菩薩立像(金竜寺) **【奈良時代】** ◉乾漆十大弟子立像のうち舎利弗・目犍連像(興福寺)、◉乾漆八部衆立像のうち緊那羅像(興福寺)、◉木心乾漆義淵僧正坐像(岡寺)、◎木造十一面観音立像(薬師寺)、◎木造梵天立像(秋篠寺)〔写真〕、◎伎楽面(東大寺)、◉十一面観音立像光背残欠(聖林寺)、◎旧二月堂本尊光背(東大寺) **【平安時代】** ◎木心乾漆阿閦如来坐像(西大寺)、◎木造十一面観音立像(地福寺)、◉木造薬師如来立像(元興寺)、◎木造如意輪観音坐像(当館)、◎木造千手観音立像(園城寺)、◎木造十一面観音立像(勝林寺)、◎木造日羅立像(橘寺)、◉木造薬師如来坐像(当館)、◎木造十一面観音立像(海住山寺)、◎木造弥勒

二月

仏坐像(東大寺)、◎木造阿弥陀如来坐像(当麻寺)、◎木造金剛力士立像(財賀寺)、◎木造十二神将立像(東大寺)、◉木造板彫十二神将像(興福寺)、◎銅造蔵王権現立像(大峰山寺)、◎舞楽面(手向山神社) **【鎌倉時代】** ◉木造法相六祖坐像のうち行賀像(興福寺)、◎木造広目天立像(興福寺)、◎木造地蔵菩薩立像(東大寺)、◎木造地蔵菩薩立像(長命寺)、◎木造地蔵菩薩立像(春覚寺)、◎木造愛染明王坐像(当館)、◎木造千手観音立像(妙法院)、◎木造馬頭観音立像(浄瑠璃寺)、◎木造釈迦如来坐像(東大寺)、木造如意輪観音坐像(当館)、木造菩薩半跏像、木造四天王立像(霊山寺)、◎木造閻魔王倚像(金剛山寺)、◎木造聖徳太子立像(成福寺)、◎行道面(浄土寺)、◎木造化仏・飛天(興福寺)ほか

三月

考　古

1月4日(水)～2月5日(日)

〔4室〕◎金峯山経塚出土品(金峯神社)、◎線刻蔵王権現鏡像(金峯山寺)、◎藤原道長願経(金峯神社)、伝大分県出土紙本朱書法華経(当館)、◎銅板法華経(長安寺)、◎銅宝塔形経筒(当館)、◎伝福岡県出土銅経筒・滑石外筒(当館)、◎長崎・壱岐鉢形嶺出土石製弥勒如来坐像(当館)ほか

特別陳列
「経塚出土陶磁展
畿内に埋納されたやきもの」

2月6日(月)～13日(月)
陳列替のため閉室

2月14日(火)～4月2日(日)

〔4室〕桜井市珠城山1号墳出土品(当館)、百済出土古瓦、高句麗出土古瓦、飛鳥時代の古瓦、白鳳時代の古瓦〔5室〕薬師寺出土鬼神文鬼瓦(京都国立博物館)、秋篠寺出土鬼面文鬼瓦、和歌山・上野廃寺出土隅木蓋瓦(当館)、山田寺出土棰先瓦(当館)、薬師寺出土花雲文隅木蓋瓦(当館)　〔6室東〕塼製如来坐像仏龕(当館)、方形阿弥陀三尊塼仏(当館)、橘寺出土火頭形三尊塼仏(当館)、川原寺裏山出土方形三尊塼仏(明日香村)、三重・天花寺出土方形三尊塼仏(当館)　〔3室〕◎鳳凰塼(南法華寺)、◉東大寺金堂鎮壇具(東大寺)、◎元興寺五重塔鎮壇具(元興寺)、鳥取・斎尾廃寺出土塑像断片(当館)、滋賀・雪野寺出土塑像断片、◎石製九輪付金銅風鐸(当館)、◉粟原寺伏鉢(談山神社)　〔6室西〕◎出雲荻杼古墓出土品(当館)、◎青磁鉢(正暦寺)　〔7室〕◎金峯山経塚出土鍍銀経箱(金峯神社)、◉三重・朝熊山経ヶ峯経塚出土品(金剛証寺)、東京・松蓮寺経塚出土銅経箱(当館)　〔8室〕◎藤原道長願経(金峯神社)、◎和歌山・王子神社経塚出土紙本墨書法華経(当館)、◎銅板法華経(長安寺)、◎伝福岡県出土銅経筒・滑石外筒(当館)ほか

新　館

彫　刻

1月4日(水)～4月2日(日)
南陳列室(〔北〕は北陳列室)

【如来】 ◉銅造灌仏盤・誕生釈迦仏立像(東大寺)、木造出山釈迦如来立像(当館)、◎木造釈迦如来立像(当館)、銅造釈迦如来立像(光明寺)、◎銅造薬師如来立像(般若寺)、木造大日如来坐像(元興寺町)、◎木造阿弥陀如来坐像(安楽寿院)、木造阿弥陀三尊像(峰定寺)、◎銅造阿弥陀三尊像(東京国立博物館)、◎木造阿弥陀如来坐像、木造阿弥陀如来立像
【菩薩】 ◎木造弥勒菩薩坐像(薬師寺)、◎木造薬師如来立像(称名寺)、◎木造准胝観音立像(常盤山文庫)、◎木造聖観音立像(本山寺)、◎木造聖観音立像、◎木造明星菩薩立像(弘仁寺)、◎木造龍猛菩薩立像(泰雲院)

【明王】 銅造不動明王立像(当館)、木造愛染明王坐像(当館)、銅造軍荼利明王坐像(園城寺)**【天】**木造十二神将立像(当館)、◎木造増長天立像(法明寺)、◎木造増長天立像(称名寺)、◎木造持国天立像(東大寺)〔北〕、◎木造多聞天立像(東大寺)〔北〕、◎木造大黒天立像(興福寺)、木造大黒天立像(西大寺)、木造毘沙門天立像(当館)、◎木造大将軍神像(大将軍八神社)、◎銅造蔵王権現立像(当館)〔写真〕

絵　画

1月4日(水)～2月5日(日)

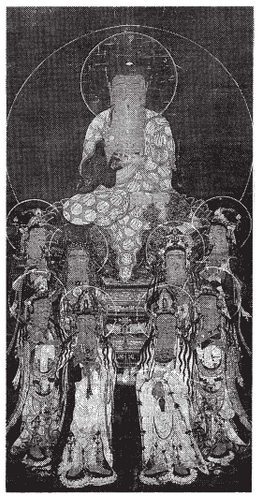
〔南陳列室〕◉倶舎曼荼羅(東大寺)、◎阿弥陀五尊像(一乗寺)、当麻曼荼羅(当館)、法華経曼荼羅(当館)、◉一遍聖絵〔巻1、巻2〕(歓喜光寺・清浄光寺)、両界曼荼羅(当館)、◎五大尊像(観音寺)
〔北陳列室〕◎板絵神像(薬師寺)

2月7日(火)～3月5日(日)

〔南陳列室〕◎八相涅槃図・附涅槃講式(剣神社)、◎涅槃図(当館)、◎十六羅漢図(建仁寺)、◎津田天神縁起(津田天満神社)、天神像(長谷寺)、天神像、両界曼荼羅(西大寺)、◎五大虚空蔵菩薩像(大覚寺)、◎毘沙門天像(知恩院)
〔北陳列室〕真言八祖像(当館)

3月7日(火)～4月2日(日)

〔南陳列室〕◎釈迦三尊像(総持寺)、◎阿弥陀八大菩薩像(松尾寺)〔写真〕、◎楊柳観音像(談山神社)、観音・地蔵菩薩像(南法華寺)、◎金字法華経宝塔曼荼羅(立本寺)、◎不動明王八大童子像(当館)、覚禅抄不動法上(観修寺)、不動儀軌(当館)、◎大日如来像(金剛峯寺)、◎七髻文殊像(宝寿院)、◎愛染明王像(宝山寺)、◎閻魔天曼荼羅(園城寺)、◎善女竜王像(大通寺)
〔北陳列室〕◎五百羅漢像(大徳寺)



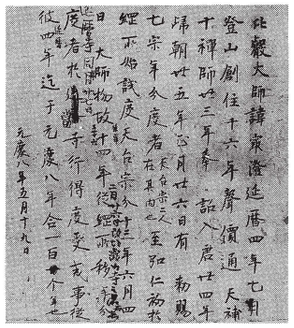
書　跡

1月4日(水)～2月5日(日)

〔北陳列室〕阿闍世王経 巻下〔五月一日経〕(当館)、◎造東大寺司請経解(当館)、瑜伽師地論 巻第十六〔五月一日経〕、◎雑阿含経 巻第三十九〔五月十一日経〕(金剛峯寺)、般若心経〔隅寺心経〕(海龍王寺)、◎紫紙金字華厳経 巻第七十(当館)、◎増一阿含経 巻第五十〔善光朱印経〕(薬師寺)、紺紙金字般若心経〔神護寺経〕(当館)、大威徳陀羅尼経 巻第八〔法隆寺一切経〕(当館)

2月7日(火)～3月5日(日)

〔北陳列室〕◉伝教大師略伝(園城寺)〔写真〕、◎伝教大師求法書等(当館)、◎弘法大師御勘文(当館)、◎弘法大師二十五箇条遺告(当館)、◎聖徳太子伝暦(本願寺)、◎涅槃会法式(高山寺)、◎誓度院勤行規式(興国寺)



3月7日(火)～4月2日(日)

〔北陳列室〕◎大般若経〔長屋王願経〕(見性庵)、大般若経 巻第四十六(施福寺)、大般若経 巻第四百七十一(談山神社)、大般若経 巻第四百一〔山田方見願経〕(東明寺)、大般若経 巻第九十六〔魚養経〕(当館)、◎大般若経(七寺)、大般若経(長久寺)、大般若経(海住山寺)、大般若経 巻第百四十八〔東大寺八幡経〕(当館)

工　芸

1月4日(水)～2月5日(日)

〔北陳列室〕 銅銭弘俶八万四千塔(当館)、銅宝篋印塔(当館)、春日神鹿舎利厨子(当館)、◉金銅透彫舎利殿(西大寺)、◎金銅火焔宝珠形舎利容器(海龍王寺)、◉鉄宝塔(西大寺)、◎黒漆螺鈿卓(東大寺)、◎金銅蓮華文透彫華鬘(神照寺)、◉金銅迦陵頻伽文透彫華鬘(中尊寺)、◉金銅宝相華文透彫華鬘(神照寺)、◎紙胎彩色華籠(万徳寺)、金銅柄香炉(高山寺)、銅王子形水瓶(当館)、銅仙盞形水瓶(当館)、◎金銅宝相華文透彫経筒(万徳寺)、神護寺経帙(当館)、◎孔雀文沈金経櫃(浄土寺)、◎金銅装戒体箱(金剛寺)、◉金銅密教法具(厳島神社)、金銅一面器(西大寺)、◎金銅草花文磬(峰定寺)、◎金銅蓮華形磬(赤松院)、◎金銅錫杖頭、◎銅鉦鼓(手向山神社)、◎銅梵鐘(当館)、◎金銅春日神鹿御正体、◎十二尊鏡像、千手観音懸仏(宇迦神社)ほか

2月7日(火)～4月2日(日)

〔北陳列室〕◎黒漆舎利厨子(般若寺)、春日神鹿舎利厨子(当館)、◉金銅透彫舎利殿(西大寺)〔写真〕、◎金銅火焔宝珠形舎利容器(海龍王寺)、◎金銅蓮華文透彫華鬘(神照寺)、◉金銅迦陵頻伽文透彫華鬘(中尊寺)、◉金銅宝相華文透彫華籠(神照寺)、竹製華籠(性海寺)、◎金銅宝相華文透彫経筒(万徳寺)、◉金銅密教法具(厳島神社)、◎金銅四大明王五鈷鈴(当館)、◎金銅四天王五鈷鈴(弥谷寺)、◎金銅独鈷鈴、◎金銅三鈷鈴、金銅五鈷鈴(当館)、金銅独鈷杵(当館)、金銅三鈷杵(松尾寺)、金銅五鈷杵(施福寺)、◎金銅草花文磬(峰定寺)、◎金銅蓮華形磬(赤松院)、◎金銅錫杖頭、金銅錫杖頭(当館)、◎銅鉦鼓(手向山神社)、◎銅梵鐘(当館)、蔵王権現鏡像(当館)、十一面観音懸仏(当館)ほか

一月　二月　三月

◉国宝、◎重要文化財。　展示品は都合により一部変更する場合があります。

奈良国立博物館開館百年（一）

奈良国立博物館は、明治28年(1895) 4月に開館して、今年4月に開館百年を迎えることになりました。そこで今回は、簡単に当館100年の歩みを御紹介します。

わが国における博物館の創設は、慶応3年(1867)にフランスのパリで開催された万国博覧会が契機となり、わが国においても外国の文化に対する知識を広げるとともに、まず日本の歴史、文化について文化財（当時は古器、旧物とも言いました）を通じて理解を深めようという動きが始まります。そして明治4年(1871)に文部省内に博物局が設けられ、東京の湯島聖堂を博物館としてその第一歩が踏み出されました。折しも明治6年(1873)、オーストリアのウィーンで開催される万国博覧会に出品するため、全国各地の特産品や美術工芸品、動植物の標本類が一堂に集められて展示され、国民に非常な感銘を与えたといわれています。

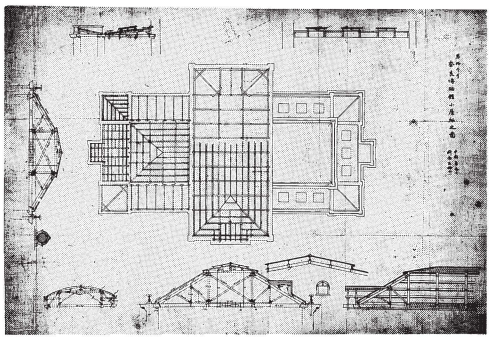
こうした博覧会の盛況は、早速全国に知られるところとなり、各地でもこうした博覧会が企画されました。奈良においても、いちはやく明治7、8年に官民合同による奈良博覧会社が設立され、東大寺大仏殿を会場として、正倉院宝物をはじめ貴重な寺宝類などが展示されました。この博覧会は、明治20年(1887)を最後として実に12回に及び、全国的な反響を呼びました。明治維新後の廃仏毀釈によって荒廃・散逸の恐れのあった多くの文化財は、この博覧会によって、人々に先人の生んだ貴重な遺産として改めて認識されるようになっていたのです。

ことに奈良の地は廃仏毀釈の影響をうけることが著しく、例えば興福寺の五重塔などが払い下げの運命にあいながら幸いに取り止めになり、あるいは天平写経が古美術商の店頭で無造作に売られ、貴重な仏画が外国に流出するなどのことがしばしば行われていました。

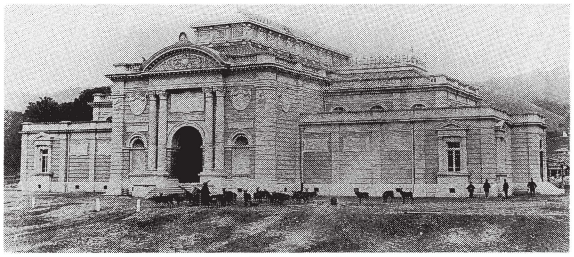
こうした文化財の保存に対する関心の高まりの中で政府は明治21年に宮内省に臨時全国宝物取調局を設けて、全国の文化財調査を実施しました。また博物館についても、明治19年(1886)に宮内省の所管とし、ついで明治22年(1889)、東京、京都の帝国博物館とともに、奈良時代以来仏教文化の中心として栄えたこの古都奈良にも、奈良帝国博物館の設置を決定したのです。ここに奈良国立博物館の歴史が始まります。

博物館設置の決定とともに、奈良県公園地の一部が宮内省に移管され、一部民有地が買収されて博物館の敷地が用意され、引き続き事務所が竣工、本格的な設立準備が始まりました。明治25年(1892)には、当時内匠寮技官であった片山東熊の設計によって建築が起工し、明治27年に竣工しました。これが現在の本館です。煉瓦造り、平屋建、モルタル外装、1,512㎡に及ぶこの陳列館は、フレンチルネサンスの様式をくみ、明治中期の欧風建築として代表的なものです。とくに正面(西玄関)まわりの装飾は意匠的にも優れ、のち昭和44年(1969)3月12日には、棟札・設計図面・模型等も含め、国の重要文化財に指定されました。また、この本館の建設に先立って、もと興福寺塔頭の大乗院の茶室であった八窓庵が、この保存について協議を続けていた奈良の有志達によって献納され、明治23年(1890)博物館の敷地内に移建されました。

陳列館(現本館)の建築工事は、奈良における最初の洋風建築であっただけに、工事中はもとより竣工時にも、連日地元のみならず近郊からも見物人が大挙して訪れ、大変な賑わいであったと伝えられています。



本館設計図面



創建当初の本館

こうして明治28年(1895) 4月、帝国奈良博物館の開館が実現しました。この時の盛況ぶりも大変なものであったそうです。その後、明治33年(1900)、宮内省は官制改正に伴い、帝国博物館を帝室博物館に改名し、当館も奈良帝室博物館となりました。次いで大正3年(1914)には奈良帝室博物館に正倉院掛が移管されたことに伴い、木造瓦葺平屋の建物を新築して古裂などの修理作業が進められることとなりました。(続)

新春講座

1月21日(土)　文化財よもやま話　　館長　山本　信吉

午後1時30分より、講堂で開催。午後1時開場、先着120名。聴講無料。

公開講座

1月28日(土)　経塚出土のやきもの　　名古屋大学名誉教授　楢崎　彰一

午後1時30分より、講堂で開催。午後1時開場、先着120名。聴講無料。

ギャラリートーク

1月11日(水)　畿内経塚出土の陶磁器　　考古室長　井口　喜晴
2月8日(水)　涅槃図　　資料管理研究室長　中島　博
3月8日(水)　大般若経　　主任研究官　西山　厚

午後2時より、陳列室で開催。入館者は自由に聴講できます。原則的に毎月第2水曜日に開催。

親と子の文化財教室

平成6年度〈奈良時代の歴史と美術―大仏造立のころ―〉主催・当館　後援・奈良県教育委員会
1月14日(土)　お経を写す　　主任研究官　西山　厚
〈対象〉小学5・6年生、中学生および保護者等。児童・生徒のみの参加も可。
〈時間〉午前10時から12時　〈場所〉当館講堂・展示室ほか　〈定員〉50名　〈参加料〉無料
〈申込方法〉親と子の文化財教室係（☎0742-22-7771）までお申し込み下さい。

奈良国立博物館友の会　平成7年度会員募集

当館では、平成7年度の友の会会員を募集いたします。会員には、会員証を発行し、東京・京都・奈良の国立博物館の平常展・常設展が観覧できます。（ただし特別展等の際には制限することがあります）。また当館発行の展覧会目録が割引購入できるなどの特典があります。
〈会費〉一般1,700円、学生1,100円。〈申込受付〉3月1日から5日間。
詳しい募集要項・申込方法及び申込用紙は展示室入口の受付に用意してあります。または「友の会要項希望」と明記の上、返信用封筒（80円切手貼付、宛名明記のこと）を同封して、〒630 奈良市登大路町50　奈良国立博物館　友の会係まで御請求ください。

ハイビジョンギャラリー（新館1階ロビー）

ハイビジョンによる臨場感あふれるクリアーな映像と、わかりやすい解説で文化財の紹介をしています。現在、「奈良国立博物館の名品」を、彫刻・絵画・工芸・考古・書跡の各分野で製作を進めており、順次放映してゆく予定です。

八窓庵茶室の公開

〈公開日〉　新館開館中の毎週木曜日（ただし雨天の場合は公開しません。）
〈公開時間〉午前10時より午後3時まで（入館者は自由に見学して頂けます。新館南側の扉よりお進み下さい。）　茶室の使用については、当館管理課までお問い合わせ下さい。

開館時間　午前9時より午後4時30分まで（入館は午後4時まで）
休館日　月曜日（月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌火曜日が休館）

観覧料金　毎月第2土曜日は、小・中学生無料（正倉院展・共催展等を除く）。

特別展		大人	高・大生	小・中生
	一般	790	450	250
	団体	530	250	130

平常展		大人	高・大生	小・中生
	一般	400	130	70
	団体	200	70	40

（団体は責任者が引率する20名以上。）

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月の各1日に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し返信用封筒（80円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

〒630 奈良市登大路町50　電話0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレフォンサービス0742-22-3331　**奈良国立博物館**